

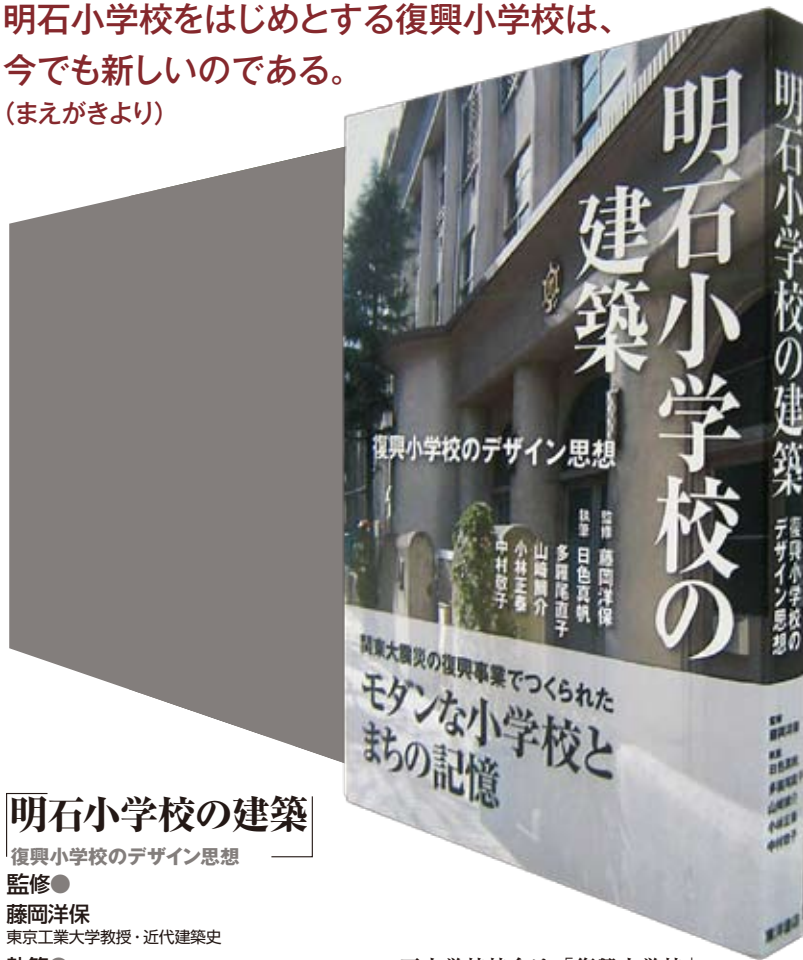
関東大震災の
復興事業でつくられた
モダンな小学校と
まちの記憶



明石小学校の建築

復興小学校のデザイン思想

われわれが学べることが込められているという点で、
明石小学校をはじめとする復興小学校は、
今でも新しいのである。
(まえがきより)



明石小学校の建築

復興小学校のデザイン思想

監修●

藤岡洋保
東京工業大学教授・近代建築史

執筆●

日色真帆
愛知淑徳大学教授・建築家
多羅尾直子
タラオ・ヒイロ・アーキテクトゥ・建築家
山崎綱介
千葉工業大学准教授・近代建築史

小林正泰
東京大学研究員・教育史

中村敬子
明石小学校卒業生

仕様●
A5判、264ページ

税込価格●
2,940円

明 石小学校校舎は、「復興小学校」の
一つとして、1926(大正15)年に建てられた。

復興小学校とは、1923(大正11)年に起こった関東大震災の帝都復興計画の一環として建てられた鉄筋コンクリート造の小学校を指し、当時の最先端の建築技術を駆使して117校が設計された。

明 石小学校校舎は、復興小学校の中でも最古の校舎で、表現主義的なデザイン、最新の建築構造、震災による経験から導き出された建築計画など、現在の目で見ても高い水準をほこる建築であった。校舎は2010年に取り壊されてしまったが、その思想を後世に残すために本書を企画した。

本 書では、明石小学校校舎について、建築的な意義を中心に、建築計画、建築史、教育史、社会史の観点から詳しく解説。現代のまちづくり、建築、教育について考えることの出来る構成。執筆者は明石小学校の保存運動にかかわった建築家、研究者、卒業生があつた。

発行●



東洋書店